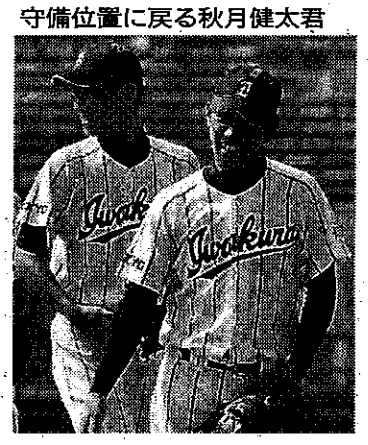
エース競い「今がある」

2012 夏

岩倉

金城直人・秋月健太選手



金城直人君（左）に声をかけ、守備位置に戻る秋月健太君

ノーシードで出場し、準決勝まで勝ち上がった。その6試合で主に登板したのは2人の投手。エースの座を競い合ってきた。

0―2で迎えた8回の守備。四球と犠打で2死二塁。相手に追加点の好機を与えた。背番号1の金城直人君（3年）が投げた変化球は打者の足元で跳ね、暴投に。二塁走者が三塁に進んだ。

「集中を切らすなよ」

秋月健太君（3年）が一塁の守備位置から声をかけた。さらに「金城、がんばれ」。そのマウンドに6回途中まで立っていた。

金城君は高校1年の秋、守備のうまさを評価され、内野を任された。投手だった中学時代の思いを捨てきれず、磯口洋成監督に「投げていいですか」と直談判した。

高校2年の夏、投手としてベンチに入った。新チームのエースは秋月君だった。エースの座をあきらめかけていた昨年10月、秋月君が右肩を故障し、投球練習をできなくなった。

ここから2人が競い合いを始めた。秋月君が150㍍のダッシュを30本すると、金城君は「1本でも多く走ろう」と考えた。

昨年12月末の伊豆大島での合宿。投手と捕手の計10人によるチーム恒例のマラソンがあった。2人は当然、競争心をむき出しにして走った。先行の秋月君を金城君が追い抜いた。

コースの途中で、島の住民の車が雪で固まった山道で滑り、立ち往生をしていた。マラソンは中止。全員で車を押した。

春になっても秋月君の肩の調子はいま一つで、都大会に一塁手として出場した。5月、先発で投げられるまで快復した。

東大会の組み合わせ抽選会の1週間ほど前に登録選手が発表された。

「背番号1は金城」

秋月君は左翼手の背番号7。エースの座が決着したように思えた。ブルペンで捕手の竹中成君（3年）を座らせても、直球しか投げなくなった。

「甲子園に行けば番号が変わるだろ。そのとき1を取り返せよ」

竹中君にそう叱られた。翌日、変化球を交えて投球練習を再開し、やる気を起こすよう踏ん張った。

決勝進出の夢は成立学園打線に打ち破られた。試合後、2人は同じような思いを口にした。

「あいつと競って来たから今の自分がある」

気がつけば、互いにぐんと成長した2人がいる。この1年間を、いとおしそうに振り返った。（川上裕央）

岩倉、9回に一矢

岩倉の渡部翔君（3年）は5点を追う9回表無死、磯口洋成監督から「思い切り振ってこい」と代打を命じられた。2球ボールが続いた後の3球目は、得意の内角高めの直球。振り抜き、一塁に向かって走っている間に左翼席で弾む打球が見えた。うれしくてうれしくて、全力疾走でダイヤモンドを一周した。試合は敗れたが、「自分の強みはバッティング。役割を果たせたかな」と笑顔だった。

東大会 きのうの勝敗

◇神宮
▽準決勝

帝京	000	000	002	2
国士舘	000	000	50×	5

均衡を破ったのは国士舘だった。7回無死満塁、西川の右前適時打で先制。笠井、丸山、巻島と安打で続き、一気に5点を挙げた。エース西川は8四死球と制球に苦しみ、4回は1死満塁の窮地に。三塁手の好守備による併殺で救われた。

帝京は3度得点圏まで走者を進めたものの、いずれも後続を断たれた。強力打線の呼び声もあったが、国士舘の堅守の前に、2点を返すのがやっとだった。

岩倉	000	000	001	1
成立学園	000	002	03×	5

成立学園が中盤以降の好機を確実に生かした。6回2死一、三塁から相手内野手の悪送球で先制すると、小柳の左前適時打で1点を加えた。8回には制球に苦しむ岩倉のエース金城を攻め立て、北原の2点適時打などで3点を挙げて突き放した。

岩倉は前半、得点圏に走者を進めたが、成立学園のエース谷岡の低めのスライダーに手を焼き、後続を断たれた。9回に代打渡部のソロ本塁打で一矢報いた。

岩倉―成立学園　4回表岩倉1死二、三塁、打者駒場のとき、三塁走者竹中は三本間で挟殺される。三塁手鈴村―加藤諒撮影

【岩倉】
打 川達 4
得 中本 4
安 月場 3
点 部串 3
振 関村 3
球 田城 1
犠 本井 0
盗 藤残 0
失 0
市安 …1
竹関 …3
秋駒 …2
渡小 …3
尾田 …0
秋金 …1
辻酒 …0
佐 …1
【岩】中―捕右投―三打左―投打投打遊打

【成立学園】
打 北見 4
得 岩篠 0
安 木鈴 1
点 斎谷 0
振 小 2
球 原目 1
犠 成崎 0
盗 村村 0
失 0
藤岡 …1
柳残 …0
10 …2
9 …1
6 …1
5 …0
3 …1
1 …0
【成】中二遊一右三左投捕

投手	回	安	振	球
秋月	5	5	4	5
村城	2/3	0	0	0
金城	1/3	1	2	4
谷岡	9	6	8	3

【本】渡部（球）朝倉　【併】成1 常田（塁）　【塁】金城2 川上 2時間　▽審 新井 5分

息子が手書きの メガホンで声援 岩倉

息子からのメッセージが書かれたメガホンを手に応援する岩倉3年生部員の親ら

岩倉の応援団が集まった三塁側スタンドでは、選手の保護者らが黄色のメガホンを手に声援を送った。宮下拓明君の母、律子さん（41）のメガホンにはサインペンで「ベンチ入り出来ず悔しいけれど、最高の仲間が必ずいい結果を出す」と書かれていた。息子から贈られたメッセージだ。母は今大会の開幕前にメガホンを受け取り、泣いた。「このメガホンで、一緒に戦う気持ちで応援します」

3年生部員22人が同様のメガホンを親たちに贈った。今年初めての試みだ。